

区民等との意見交換会の概要

本委員会における情緒障害児等支援対策の調査・検討に資するため、以下のとおり区民等との意見交換会を開催した。

1 開催日時

令和5年10月12日（木） 午前9時53分～午前11時46分

2 参加者

- （１）墨田区発達障害の子どもを持つ親の会 7人
- （２）墨田区議会放課後対策・情緒障害児等支援対策特別委員会委員 12人

3 内容・テーマ

「発達障害の子どもを育てていくことに係る現状の課題と区・学校に対して望むこと」

- ア 幼児期における区のサポートについて
- イ 就学相談について
- ウ 支援教育の在り方（通級・固定級）について
- エ 放課後の居場所について
- オ 区・学校からの情報提供・情報発信について

4 意見交換会の概要

- 9：53 開会、委員長あいさつ、出席者紹介
- 10：00 今回のテーマについて全体的なお話を伺う
- 10：40 3グループに分かれて意見交換を実施
- 11：13 グループごとにどのような意見があったかを発表
- 11：22 全体での質疑応答・意見交換
- 11：46 委員長あいさつ、閉会

～ 意見交換会における主なご意見は次のとおり ～

今回のテーマについての全体的なお話における主なご意見

- ・ 知的発達に遅れはないものの、自閉スペクトラム症やＡＤＨＤなどの特性が強く通常級になじめない子どもたちのために、情緒級の全校設置を早期に実現してほしい。
- ・ 現行の制度の中でも、知的発達の遅れがなくても場合によっては支援級に転級できることがあるなど、細かい条件や選択肢をオープンにしてほしい。
- ・ 成人若しくは自立までの見通しが立てられる支援体制を確立してほしい。
- ・ コロナの影響で支援級と通常級の子どもたちの交流がなくなってしまい、社会から分離されてしまったように感じている。全校に支援級を設置した上で、子どもたちが一緒に過ごし、必要に応じて個別の支援を受けられるといった環境が望ましい。
- ・ 支援級に通うとなった場合でも、学校の選択肢が欲しい。遠くの学校まで毎日送迎するため、仕事を辞めざるを得なかった。支援級の全校設置が理想だが、まずは支援級に通う子どもの送迎サービスを実施してほしい。
- ・ 支援級がある一番近い学校まで距離があり、ただでさえ不登校リスクの高い発達障害児が、より不登校になりやすい状況に置かれている。需要に応じて全校に支援級を設置するか、千代田区のようにスクールバスの運行を実施してほしい。
- ・ 各学校長に対して、フリースクールへの登校を出席扱いにするよう通達してほしい。また、その上で卒業認定をいただきたい。
- ・ 就学相談の結果、通常級へ通うことになったが、子どもはかんしゃくがひどく、母子分離もうまくできていないのでとても不安である。適切な支援が受けられる情緒級をできるだけ早く設置してほしい。
- ・ 支援に関する情報が届いてこない。どうすれば適切なタイミングで必要な情報を得ることができるのか分からなくて困っている。
- ・ 子どもの発達の具合はそれぞれなので、支援の在り方も一つではなく、いろんな選択肢があってほしい。
- ・ 途中登下校に全て親の送迎が必須とされていて、仕事をしながらでは負担が大きい。また、そういった場合にどのような支援が受けられるのか情報がない。
- ・ 不登校の間もクラスとのつながりを保つためにオンラインで授業に参加させてもらっていたが、先生によってどこまで対応してもらえるかに差がある。ＩＣＴの導入に関しては、先生たちのスキルアップ支援だけではなく、意識啓発も併せて行ってほしい。
- ・ 不登校のため授業についていけなくなるので、ホームスクーリングなどの支援が欲しい。また、各学期、各教科の学習予定の内容だけではなく、指導方法なども公開されていると家で取り組ませやすいと思う。
- ・ 不登校特例校は、今後、全国で導入が進んでいくと思うが、まだ数が少なく、希望しても入りにくい。墨田区でも不登校特例校の導入を検討してほしい。
- ・ 障害に対する無理解が、いじめや差別の一因となっている。少しでも理解が広がる、溝が埋まるよう啓発を強化してほしい。また、その学校に支援級がある、ないに関わらず、子どもたちが支援教育について知ることができる機会がもっとあってよいと思う。

3 グループに分かれての意見交換における主なご意見

Aグループ

- ・ 知的発達に遅れはないが、通常級になじめず、たまたま支援級に空きがあったのでそちらに在籍しているが、一学年下の授業内容のプリントをやっていて、学習に関しては置き去りになっている。
- ・ 担任から支援級への転級を勧められたが、その学校には支援級がなかったので転校するしかなかった。兄弟が別々の学校に通うことに抵抗があり、また支援級がある学校を見学に行った際、分離教育ということを強く感じたので、区外への転出を決心した。
- ・ 現行の制度では情緒障害児は通級支援が基本なので、普段は通常級の教室の中で嵐が過ぎるのを待つようにじっとしているしかない。江戸川区のエンカレッジルームのような一時的な居場所があるといい。
- ・ 基本的には支援級の全校設置が希望だが、せめて送迎支援だけでもお願いしたい。慣れ親しんだ学校に、支援級という安心できる場所が欲しいというのが本当のところである。
- ・ 情緒級を一つつくとすればそこに支援が必要な子どもが集中し、受け入れられない子どもが出てくる。やはりある程度の数を準備してから実施するようにしてほしい。
- ・ フリースクールへの登校を出席扱いにするかどうかは、区によって判断にばらつきがある。一応ガイドラインはあるが、その存在を知らない先生が多い。
- ・ 情緒障害というと知的障害ありとなしの間のような扱いになるが、情緒級をつくと、そこにもまた隙間ができてしまう。とにかく選択肢を増やしてほしい。
- ・ 幼児期から自立するところまで一貫して見てくれるような支援体制であるとうれしい。

Bグループ

- ・ 千代田区のようにスクールバスを運行してほしい。また、全校に支援級が設置されているとすごく助かる。
- ・ 自転車で送迎しているが、事故を起こしたら大変なので、すごく神経を使って送迎している。移動支援もあるがほぼいっばいで、毎日の利用は難しい。
- ・ 正社員として働いていたが、障害のある子どもだと分かってすぐに非常勤にしてもらった。フルタイムで働いていては療育に通えない。
- ・ 学童クラブは支援が必要な子どもの受入数が限られているが、今は一部の学校に支援級の子どもが集中しているので、その学校の学童では収まりきらず、一部の子どもは更に遠くの学童に通うことになってしまっている。
- ・ 放課後デイサービスと学童クラブは管轄が違うので、情報交換ができていない。放課後デイサービスは基本的に療育のようなところなので、その辺の考え方を改めて柔軟に対応できるようにしてほしい。
- ・ 学童クラブは家から遠くのところになることが多い。本当は自立を促すために一人で通えるようにすることが一番だが、それが難しい場合もあるので、移動支援を充実してほしい。

- ・ 小学校の先生に中学校のことを相談しても、情報を全く持っていない。中学生の子どもを持つ親御さんに知り合いがいなかったので、自分で学校見学に行ったりして情報を集めるしかなかった。
- ・ 豎川中のある先生が独自に作成した冊子には、今後の流れや高校の情報が掲載されていて、とても助けられた。
- ・ コロナ前は支援級と通常級の子どもたちが一緒に過ごすことが多かったが、コロナ禍で完全に分離されてしまい、今もそのままになっている。通常級の子どもたちは学びの機会を失っており、支援級の子どもたちにとっては居づらい場所になってしまっている。

Cグループ

- ・ 療育に通う子どもの母親たちは大体専業主婦で、「発達が遅れていると分かったらやらくちやいけないことがたくさん増えるのに、仕事なんかしてちやいけないんじゃないの」と思われることがすごくつらい。
- ・ 親の会に入ってから情報交換ができる機会が増え、今まで知らなかったことが本当に多かったということに気付いた。ほかにも困っている人はたくさんいるだろうと思う。
- ・ 1年半ぐらい泣きながら幼稚園に通っていたので、小学校でもまた行き渋りが始まってしまうのではないかと不安に思っている。情緒級があったら過ごしやすいだろうと思う。
- ・ 従業員が多い会社に勤めており、社員の中には子どもに発達障害があるという人もいると聞くと、やはり健常の子どもである場合が多く、自分の状況をなかなか理解してもらえない。
- ・ 今はキャリアアップということより、子どもに掛かるお金が本当に多いので金銭的な理由で働いているという側面が強い。
- ・ 今の保育園にはゼロ歳のときから通わせてもらっているのでも、周りの子どもたちも障害のことについてよく理解してくれている。障害がある子どもと関わるということは、子どもたちにとってとても意味のあることだと感じる。
- ・ 療育もお金が掛かる。受給者証を使えるところもあるが、予約がいっぱいで全然利用できない。

全体での質疑応答・意見交換における主なご意見

- ・ 校長の裁量が大きいゆえに、学校によって対応に差がある。区としてある程度、基準を統一したほうがいい。
- ・ 早期療育が非常に重要だと言われているが、発達障害があることを知らなかったらそこに結び付かない。妊娠時から啓発していくことが重要だと思う。
- ・ 支援級がある時点でその学校の学童には支援が必要な子どもが集中し、その学校の学童に入れなかった子どもが遠くまで通うことになる。放課後デイサービスも共働きでは利用できない。支援級の子どもの学童の受入れについて、少し考えてほしい。
- ・ 子どもも成長するにつれ自我が芽生えてくるので、子ども自身が自分のことを決める権利とのバランスを取っていくことが難しいと痛感している。
- ・ 保育園を卒園するときに、小学校への情報連絡用に「かがやき」というシートを作成したが、入学当初、小学校の先生は読んでいなかった。書類上の情報だけでは現実感がないので、先生も扱いづらいただろうと思う。
- ・ 「かがやき」のような情報連絡に使うものは、最近はデジタル化が進んでいるので、全ての場所で通用する電子フォーマットを用意して、それを様々な機関でシェアするように区が仕切ってくれるとすごく助かる。